あおい通信 第109号

第109号 平成26年5月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

日本の世界遺産めぐり
その七 原爆ドーム（文化遺産）

原爆ドーム
（広島平和記念碑）

広島県産業奨励館とよばれていた。ユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されており、「二度と同じような悲劇が起こらないように」との戒めや願いをこめて、特に負の世界遺産と呼ばれている。

大正期の
広島県物産陳列館

〈所在地〉広島県広島市中央区大手町一－十

原爆ドームは、広島市に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える記念碑（被爆建造物）である。元は広島県物産陳列館として開館し、原爆投下時は広島市は、日清戦争で大本営がおかれたことを契機に軍都として急速に発展した。経済規模の拡大とともに、広島県産の製品の販路開拓が急務となっていた。その拠点として計画されたのが「広島県物産陳列館」である。大正4年に竣工した。

1945年8月6日午前8時15分17秒（日本時間）アメリカ軍のB－29爆撃機「エノラ・ゲイ」が、建物の西隣に位置する相生橋を投下の目標として原子爆弾を投下した。投下43秒後、爆弾は建物の東150m、上空約600mの地点（現島外科内科付近）で炸裂した。原爆炸裂後、建物は0・2秒で通常の日光による照射エネルギーの数千倍という熱線に包まれ、地表温度は3000℃に達した。0・8秒後には前面に衝撃波を伴う秒速440m以上の（爆風）が襲い350万パスカルという爆風圧（1平方メートルあたりの加重35トン）にさらされた。このため建物は原爆炸裂後1秒以内に3階建ての本体部分がほぼ全壊したが、中央のドーム部分だけは全壊を免れ。枠組みと外壁を中心に残存した。

ドーム部分が全壊しなかった理由として衝撃波を受けた方向がほぼ直上からであった事、窓が多かった事により爆風が窓から吹き抜ける（ドーム内部の空気圧が外気より高くならない）条件が整った事、ドームの部分だけは建物本体部分と異なり、屋根の構成材が銅板であった事、銅は鉄に比べて融点が低いため、爆風到達前の熱線により屋根が融解し、爆風が通過しやすかった事、などが挙げられている。ドームの部分は全体が押し潰される程の衝撃を受けなかったため、爆心地付近では数少ない被爆建造物（被爆建物）として残った。

その後しばらくはまだ窓枠などが炎上せず残っていたものの、やがて可燃物に火がつき建物は全壊して、ついに煉瓦や鉄骨などを残すだけとなった。

世評・時評

「高いつもりで低いのが教養／低いつもりで高いのが気位／深いつもりで浅いのが知識／浅いつもりで深いのが欲の皮／厚いつもりで薄いのが人情／薄いつもりで厚いのが面の皮／強いようで弱いのが根性／弱いようで強いのが意地／多いようで少ないのが分別／少ないようで多いのが無駄」これは毎日新聞「余禄」から孫引きした富山の薬売りがお客に置いていった「標語集」の中の言葉だそうだ。勿論、これだけが教えではないだろうが、こういう言葉が庶民の間にも浸透していて日本人は慎み深く思慮や分別があり、抑制のきいた社会が出来ていたのだと思う。

戦後、そういうモラルや価値観を、封建的で人間性を抑圧するものとしアメリカ的な個人主義を信奉するようになったが、幸い良識ある日本人が謙虚で穏やかな社会を作ってきた。

しかし、最近の日本はどうか。●自分のイライラを鎮めるために、人の群れに車を突っ込む。●自分を裏切ったり言うことをきかない女を刺殺する。●他人の女房に懸想して、言うことを聞かない女性をめった刺しにし、「殺したらあの世で一緒に暮らせると思った」と言った男がいたが、あの世で自分を殺した男と一緒になる女性がいるだろうか？

日本人の精神構造がおかしくなってきて居るのだろうか、こんな事件を聞く度に、日本が銃社会でなくて良かったと思っていたが、つい最近●弱い者は銃で武装する必要があると云う手前勝手な理論で、3Dプリンターで銃を作り、逮捕された男がいた。これで私製銃がはびこったら、日本の社会はどうなるのだろう。

今こそ日本人の良識と法の遵守の精神が必要とされる時代だと思う。

（やぶにらみ）

雑記帳
水無月（6月の異名）の由来、諸説、等

現在では新暦6月の別名として水無月（みなづき）がよく用いられる。水無月の由来には諸説ある、何点か紹介してみよう。

文字通り、梅雨が明けて水が涸れて無くなる月であると解釈されることが多いが、逆に田植えが終わって田んぼに水を張る必要のある月「（水張月（みずはりづき）」「水月（みなづき）」であるとする説も有力である。他に田植えと言う大仕事を仕終えた月「皆仕尽（みなしつき）」であるとする説、水無月の「無」は「の」という意味の連体動詞「な」であり「水の月」であるとする説などがある。

梅雨時の新暦6月の異称として用いられるようになってからは「梅雨で天の水がなくなる月」「田植えで水が必要になる月」といった解釈も行われるようになった。

6月の異名としては弥涼暮月（いすずくれつき）、風待月（かぜまちつき）、水月（すいげつ）、鳴神月（なるかみつき）、涼暮月（すずくれつき）、蝉羽月（せみのはつき）、常夏月（とこなつつき）等々の他にも数語る。

大塚

葵友の会 広報コーナー

5月度行事の結果

萬飾柴又日帰り旅行

14日（水）

友の会旅行史上最大の参加者数、46名の大ツアーでした。天気にも恵まれ、寅さん映画そのままの下町風情を満喫し、無事終了することが出来ました。

老舗「川千家」での昼食

カラオケ会

16日（金）バンバンにて7名の参加。女性の参加が少ないので、皆さん宜しく。

麻雀大会

21日（水）、ベイブにて、優勝は福山さんでした、おめでとうございます。

（事務局長）

◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

利用者さんの紹介コーナー

松原　總介（水）

生命保険会社に勤めておりました。転勤が多く、全国二十三ヵ所の支店をまわりました。

葵では、週一日ですが、楽しく過ごしています。

吉田　徳子（金）

手先を動かすことが好きで、押し花、編み物などやっていました。

運動はあまり好きではなかったのですが、葵での活動で、肩こりなど解消され、体を動かすことのよさを実感しています。

辻村　明代（火・土）

しっかりと歩けるようになりたい、という思いでリハビリに励んでいます。がんばります。

落語と神仏 ③

絹田　治夫

信ずる者は救われる？ 落語が教える信心の大切さ　最終章

現世利益を授けてくれる神様は、お稲荷様とは限らない。「堀の内」で粗忽者が日蓮宗のメッカである妙法寺へ参詣するのは、祈願によって粗忽をなおして貰うためである。

「心眼」では盲人が茅場町の薬師様に、「景清」では赤坂の日朝様に日参したのも目が見えるようになるためであり、事実彼らの願いは神に聞きとどけられる。また「鰍沢」では日蓮の熱心な信者が毒を飲まされて身体が動かなくなったとき、小室山から頂いてきた毒消しの秘妙符（御封）を飲み無事の身体が動くようになり、危機を逃れている。

秘妙符とは、紙に真言密呪や神仏の名前、もしくはその像を書いたもので、現代の医学から考えれば毒消しの効用などあるはずがないのだが、神仏が与えてくれる現世利益を信じる社会では、文字通り「信ずる者は救われる」のである。

そして、落語はそうした人々の信仰心を反映し、神々に信仰すれば願いがかなうという嘶を人々に提供してきたのだ。神仏がご利益を与えてくれるという嘶など、現代人からすれば荒唐無稽に見えるかもしれないが、そうした落語が作られた時代の人々にとってはまったくの作り話どころか、ある種のリアリティーを備えた物語だったのだろう。

ふわふわ亭　わび助

思い出の旅

泉　貞子

今から十年あまり前のこと、東京と金沢から十二名が合流して、酒田の庄内雛を拝見し、日本海の新鮮な魚のフレンチを食べるユニークなツアーが実現した。

数人の外は、まったく初対面の人々であったが、折角のチャンスだからと、東京と金沢から一人ずつ二名をひと組にして部屋割りをした。色々と珍しいお話が出て、とても楽しかった。

酒田は、みんな初めてだった。本間家や庄内藩校の致道館の立派な古代雛を拝見して、北前船のもたらした文化の高さに驚嘆した。また、白鳥の湖水に囲まれた土門拳の記念館も立派で、仏像や古寺の写真が所を得て、ひとしお輝いていたのを、ゆっくり拝見できた。

ポトフーのフレンチは、今度の旅のもう一つ目的であった。聞きしに勝る美味しさで、オードブルやソイの塩釜焼などなど、シェフの心のこもったサービスを受けた一夜であった。

こんなに心に残る旅は初めてであった。是非また誘って頂きたいと、皆様から電話を頂いて、人とのご縁を大切にして来たことが実を結んだと、今でも心温まる思い出が甦る。懐かしい旅である。

脳梗塞　私の場合

縣（あがた）百合子

平成二十五年七月下旬、体調の異変に気付く。この日はゴルフ場に居た。午前のラウンドも終わり、昼食雑談、午後のラウンド三ホールの所で大一打を打った。雲っていた空から太陽が出始める。足元から蒸暑くなり、同時にめまいもしてきたので、ホールアウトを告げてカートに戻ろうと歩くと、まっすぐに歩いているのに左方へくと足が行く。仲間がフロントに連絡してくれて、ロッカーの涼しいところで休んでいると、気分もよくなり、同組のカートを待ってクラブの確認、解散して何事もなく家に帰った。

一階にエアコンを入れ、二階の窓を全開にして下に行こうと階段を見ると、昼間と同じめまいを感じたので、掛かり付けの病院に行く用意をして十分ほど横になっている所に仲間の一人からTELがあり、事情を話してすぐに掛かり付けの病院に直行。既にフラフラして何かにつかまらないと歩けない。それ以前に姉兄の死が続いていたり、隣家の解体業者との話し合い、寝不足もあり、私の精神状態も不安定で、最悪な事態となり、普段呑気な私の脳もパニックを起こしたのだと思う。

先生も、いつもの私ではない、と思ったのか、大学病院でよく診てもらいましょうと連絡してくださり、チームを作って受け入れますとの返事を頂き、すぐに、ひばりヶ丘から練馬の病院に救急搬送されて即入院となりました。同時に右眼のマブタも閉じていて、目をあけると物が二重に見えて歩けなくなりました。

大学病院のひと月の内十日間は点滴治療で、ずい分良くなりました。私の場合、これからはリハビリの方が回復が早いと、先生の決断もありリハビリ専門病院に転院しました。一日三時間のスケジュールをこなす間に右眼も物が一つに見えるようになってきました。

計三ヶ月の入院から現実に戻って感じたことは◆体力・筋力・握力の低下＝物を落とし易い、タオルを絞れない、我慢できていたトイレもすぐに行かないとあぶない。◆物忘れがひどくなる＝いつもの所を探しても、すぐ見つからないことが多くなる。◆体重増加＝運動不足なので歩くとヒザ、足首が痛むことが多くなる。

色々やりたいのに身体が働いてくれず、じれったい毎日だけど、これからの人生、心のノートにはよかったと書けるページにしてみたい。

命あるかぎり。

朝のウォーキング

島田　琵江

冬の朝、よく晴れた空と空気に身が引き締まる。金色に輝いて昇る太陽に、力強いエネルギーを感じて歩く。

十数年前から、毎朝五十分間ほどのウォーキングを日課にしている。気力体力をつけたいと思うからだ。早めに朝食をすませて出かけると、すばらしい朝日を見ることが出来る。

今年も、元旦から早起きをして、防寒着に身を包み、スニーカーをはいて、アップダウンのある道を選んで歩く。犬の散歩をしている人達に挨拶する。庭先に植えられた草花にも心和む。家に帰り、お茶を一杯。あゝ、今日も気持ち良く歩けたことに満足し、感謝する。足腰の痛みがないのが何よりの幸せ。

田舎の友人から電話が入る。「卒寿まで自分の足で歩きましょうね」。やさしい彼女の笑顔を思い、涙した。

あおい俳壇・歌壇

春雨に　ぬれて葉桜　数千葉
相田美代子

柴又や　矢切の渡しに　初夏の風
富寿郎

朝日あび　びわ湖の水面　きわめきて
旅の疲れを　癒しくれるも

うすぐもる　弥生の空に　枝ひろげ
芽吹く　こぶしの　花あたたかき
麻生伊登子

鏡見て　母に似ている　吾が顔に
あいたくもあり　わびしさもあり
相田美代子

心より　信じあひ合ふ　友ひとり　存りて
五月の風　やはらかし

平穏に　過ぐる日々なる　夕ぐれの
ほ暗き庭に　花植へて佇つ
河西千恵子